

(その2)

事業報告書

1. 事業名

2. 事業の実施内容

(1) 実施日時・場所

7月から1月にかけて津島市内の寺社や事業所を取材
取材内容を駄菓子屋すーさん内にて編集、記事作成
全4回の子供新聞を発行

(2) 対象者及び参加人数

各号4名程度の児童が参加し取材
延べ15名程度の方々に参加してもらい記事を作成

(3) 実施内容

- 第1回 創刊号 8月に4,000部発行
【テーマ】津島の避暑スポット、お寺
- 第2回 9月号 9月に2,000部発行
【テーマ】くつわ作り体験、津島神社門前朝市、お寺
- 第3回 秋号 10月に2,000部発行
【テーマ】津島市内の手作り体験、お月見イベント紹介
- 第4回 冬号 11月に2,000部発行
【テーマ】津島市内の手作り体験、本町筋、天王通の紹介

「子ども目線で見ると津島の魅力を発信する」という思いを柱に、取材から編集、折込など子ども中心に行った。

発行した子供新聞各号は、津島市観光交流センターや図書館、市民活動情報コーナーなど市内の公共施設へ設置するとともに取材を行ったお店にも設置し、たくさんの方に見てもらうことができた。

3. 事業の成果（この事業によって何が成果として得られましたか。）

たくさんの方の手に取っていただいたことで、津島の魅力を発信することができた。また、事業目的のひとつでもある、津島の魅力を津島市内の子どもがもっと気づききっかけになった。

この新聞作成をきっかけに、市内の店舗さんがとても協力的になったと感じた。また、取材等をとおして色々な方と交流できた。

4. 事業実施上の工夫（事業の目的達成のため、特に創意工夫した点は。）

あくまでも子ども目線で作ることにこだわった。子どもの自主性を大事にすることで、愛着の湧く新聞となった。

新聞を作成する上で多くの協力者とともに作成・配架した。例えば、津島北高校のボランティア部とコラボし、子ども新聞の作成作業（折り込み作業）を行うほか、市内の学童保育施設に設置し広く周知することができた。

事業実施中、中日新聞社から取材を受け、朝刊の尾張版に掲載されたことで取り組みの知名度アップの効果があった。

5. 事業実施上の反省点（具体的な反省点は。）

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、全6回発行する予定が4回となってしまった。

始めたばかりの事業であるため、印刷部数を増やしたり、取材回数を増やしたりする資金の工面をどうするかが今後の課題である。